開講「恵那地球塾」
木股健二基金恵那高校留学制度

城陵

－　第18号　－
発行／岐阜県立恵那高等学校同窓会
所在地／岐阜県恵那市大井町1023-1
〒509-7201
TEL・FAX：0573-25-0253
E-mail：c27331@gifu-net.ed.jp
発行責任者　阿部　伸一郎

平成30年1月17日、報道各社を通じて木股健二基金恵那高校留学制度「恵那地球塾」の開講がアナウンスされた。

これは平成29年に木股健二氏（中18回、同年逝去）より多額の寄付を頂き、恵那高生に世界を見てきてほしいという木股氏の遺志に沿って発足したものである。木股氏は旧制恵那中を1944年3月に卒業予定であったが、前年に海軍飛行予科練習生に志願し出征した。終戦後、名古屋大付属医学専門部（現名古屋大学医学部）に入学し、病院勤務を経て関市で外科医院を開業した。木股氏には子どもがなく、もし子どもがいればこのくらいの金額はかかったはずと母校への寄付を思い立ち、平成29年に1千万円、その後2度にわたって5千万円の計1億1千万円を寄付していただいた。しかし、恵那高校は県立高校であるため学校として寄付を受けることができないので、同窓会が寄付の受け皿となり基金を創設し、「恵那地球塾」と命名して平成30年度より留学制度が実施されることとなった。

内容は3つあり、1．長期留学、2．短期留学、3．国内留学体験で、長期留学は1年間北米への留学、短期留学は夏休みを利用したターム留学でオセアニアへ、国内留学体験は国内で3～5日間、海外の大学院生とテーマに沿って英語でディスカッションを行うというものである。基金からは留学支援として長期留学には約100万円を3名程度に、短期留学は約50万円を5名程度に、国内留学体験には30～50名程度に費用の半額を支援する。

国内留学体験については平成30年度から実施、長期留学、短期留学は平成30年度に希望者を選考し平成31年度から実施する。

公立高校でこれほどの規模の留学制度を持つ学校は全国的にも珍しく、恵那高校は「世界に最も近い学校」になります。

後輩よ、世界を見て育て

恵那高同窓会が留学制度

OBの寄付金活用　3コース

県立恵那高校（恵那市）の同窓会が、在校生の海外留学を資金面で後押しする「恵那地球塾」を立ち上げた。年間8人ほどを海外に送り込む大胆な支援。関市に住んでいた同窓の医師、故・木股健二さんから生前に受けた寄付金1億1千万円を活用する。

木股さんは昨年5月、同窓会に1千万円を寄付した。9月にも5千万円を2回。「実子がなく、子育ての負担がなかった。その分、母校の子どもたちの役に立ちたい」と語ったという。

旧制恵那中学校（現・恵那高校）に学び、卒業まで1年を残して海軍飛行予科練を志願。終戦後は名古屋大学医学部の前身で学び、外科医になった。「戦中、南方戦線に出征した体験が自分を大きくしてくれた」とも話していたことから、同窓会と学校は寄付金を留学のための基金とすることを決定。しかし、木股さんは肺炎のため、9月の寄付の1カ月後に91歳で亡くなった。

生前の木股健二さん

「地球的な視野を持ったたくましい生徒を育てよう」。遺志を継いだ学校は留学斡旋事業者から話を聞き、事例も調べて研究。①米国かカナダに1年間留学②夏休みを使い、豪州かニュージーランドへ2カ月半留学③冬休みや春休みの3～5日、外国人大学院生を招いて校内で英語ディスカッション講座を開催――の3コースを設定した。

①は年間3人程度に各100万円を支給し、ホームステイしながら現地の高校に通って終了後に復学する。②は5人程度に各50万円を支給し、夏休みの枠を超える留学日数は通学として認める。③は30～50人に費用として数万円ずつ支援。様々な社会問題を英語だけで議論をする。

このうち①については、雑費を含めて1人あたり約260万円がかかるが、県教育委員会の支援制度を併用すると、自己負担はほぼ半額になるという。

3コースとも2018年度に希望者を募り、英語力を試験。①②は19年度に1期生を送り、③は18年末の冬休みに実施予定だ。同窓会の阿部伸一郎会長は「木股さんの思いに沿い、思い切って大型の支援制度にした。基金は年々減るが、途切れないよう同窓会としても支えたい」と話した。（森川洋）

平成30年1月21日朝日新聞

2017－2018 Student of the Year賞

この１年間に県レベルの大会などでトップになったこと、全国大会に出場したこと、または、それと同等の成果を上げた個人・団体を表彰しています。平成29年度は個人15人と３団体を表彰しました。

個人

①野々村真白（32組）
・第41回全国高等学校総合文化祭みやぎ総文　朗読部門　審査員特別賞
・第64回ＮＨＫ杯全国放送コンテスト　朗読部門　出場

②萩原美南（32組）
・第41回全国高等学校総合文化祭みやぎ総文　朗読部門　出場

③鈴木映恵（26組）
・岐阜県高等学校文芸コンクール　短歌部門　1位
・第11回島崎藤村記念文芸祭　短歌部門（一般の部）三席

④永治旭（23組）
・平成29年度岐阜県高等学校新人大会ボート競技　男子ダブルスカル　優勝
・第31回中部高等学校選抜競漕大会　男子ダブルスカル　3位

⑤西尾颯馬（24組）
・平成29年度岐阜県高等学校新人大会ボート競技　男子ダブルスカル　優勝
・第31回中部高等学校選抜競漕大会　男子ダブルスカル　3位

⑥中島みなみ（24組）
・第64回東海高等学校総合体育大会　女子ダブルスカル　3位
・平成29年度岐阜県高等学校新人大会ボート競技　女子ダブルスカル　優勝

⑦近藤里奈（26組）
・第64回東海高等学校総合体育大会　女子ダブルスカル　3位
・平成29年度岐阜県高等学校新人大会ボート競技　女子ダブルスカル　優勝

⑧下畑文乃（26組）
・第65回岐阜県高等学校総合体育大会陸上競技の部兼全国・東海高等学校総合体育大会　陸上競技岐阜県予選会　女子800m　優勝
・第20回東海高等学校新人陸上競技選手権大会　女子800m　2位

⑨田立脩一朗（35組）
・第61回日本学生科学賞岐阜県審査委員会　最優秀賞

⑩成瀬大生（35組）
・第61回日本学生科学賞岐阜県審査委員会　最優秀賞

⑪榊間雅乃（35組）
・ＳＳＨ東海フェスタ２０１７　口頭発表　優秀賞

⑫伊藤菜穂（36組）
・ＳＳＨ東海フェスタ２０１７　口頭発表　優秀賞

⑬神谷祐未（36組）
・ＳＳＨ東海フェスタ２０１７　口頭発表　優秀賞

⑭曽根千滉（36組）
・ＳＳＨ東海フェスタ２０１７　口頭発表　優秀賞

⑮羽根優紀（36組）
・ＳＳＨ東海フェスタ２０１７　口頭発表　優秀賞

団体

①軟式野球部
・第64回東海高等学校総合体育大会軟式野球競技会Ｂゾーン優勝

②新体操部
・平成29年度岐阜県高等学校新人大会　新体操女子団体の部　優勝

③放送部
・第64回ＮＨＫ杯全国放送コンテスト　ラジオドキュメント部門　出場

恵那高校音楽部　第40回定期演奏会

毎年３月に行われている音楽部の定期演奏会は、平成30年３月25日に恵那文化センターで40回目を迎えた。部長の林宏誠さんは「仲間、親、先生方、今まで音楽部の伝統をつないでくださったＯＢＯＧの方々、今日来てくださった皆様、全ての人に感謝しながら歌います。」と語った。演奏会では「ありがとう」をテーマに、顧問の後藤和世先生の指揮のもと３ステージ20曲を演奏した。またこの日は第１回目の定期演奏会を行なったＯＢＯＧも会場に駆けつけ後輩たちを激励し、40回記念ＯＢＯＧ合同ステージでは、この十年の間に音楽部を卒業した約60人が加わり、40回の節目に花を添えた。

40回記念ＯＢＯＧ合同ステージ　アンコール

テーブルとイスを寄付

在校生への学習支援として、第一校舎２階のオープンスペースに６人掛けのテーブルと椅子を３組、テラスにベンチテーブル２基を購入させていただきました。

追憶　木股健二君

旧制恵那中学校十八回生

水野恭平

御依頼を受け、恵那高への高額寄付者・木股健二君についての思い出を記してみよう。

今年に入って彼は死期近きを悟ったのか、寄付の件について私に相談するようになった。

思い起せば、九十周年記念行事への熱心な参加希望の彼が、直前になって間質性肺炎の為入院、欠席せざるを得なかったが、その頃からの病患だった。寄付完了後の十月九日、彼は肺線維症のため死去した。お棺の中の彼は、贈られていた恵那中学校応援旗に抱かれていた。

十八回生は、十五年戦争（満州事変・日中戦争・太平洋戦争の総称）という戦火の渦中で育ったものだが、昭和十六年十二月八日の真珠湾攻撃は中学三年の時だった。やがて先輩の木下広吉氏（十一回生）戦死の報を受け、全校が感動の嵐に湧いたものだ。真珠湾上空で犠牲となった29機、54名中のひとりである。空母〝赤城〟での絶筆には「…中学校へも一報して下さい。もう何もなし。安らかに眠って明日の戦闘に備ふ。…」なる文面もあった。木下さんは予科練三期で城陵からの志願第一号であった。海軍飛行予科練生の略称で海軍航空隊に配属される。その後、先輩に続けとばかりに、十八回生からは四年生半ばの十七年十月、十一期として四名が志願入隊。全員が満十八歳前後で雲を墓標に大空に散った。翌十八年四月、十二期として三名が続いたが、その一人が木股君である。以上七名の中学同級生が、三重海軍航空隊で揃った時の写真があるが、「若桜の碑」と題する木股君の文章、先の木下氏の絶筆と共に、創立五十周年記念「城陵誌」に掲載されている。十八回生が最上級の五年生だった十八年七月、講堂での生徒集会で予科練全員志願の決議をしたが、先生方もさすがに全員はならぬと熱心に抑えられ、最終的に十八回生から

木股氏と奥様

は十二名が入隊することとなった（十三期）。最初の四名以外は全員無事に敗戦を迎えたが、ほかに浜松での艦砲射撃、シベリア抑留の二名が級友で犠牲となった。戦争と軍国の潮流に染め上げられた悲劇である。

平成二年八月十五日、木股君が実行委員長となり、予科練戦没者十五名の慰霊祭が母校の図書室で挙行され、遺族の方々二十名を含め八十名程が参集、意義深い内容の時間が流れた。

慰霊祭の前夜、木股君は旅館いち川で一泊しているが、夕食時に私を招待してくれていた。中学時代、戦中・戦後のことなど二人でしみじみ語り合ったものだが、忘れられない思い出である。彼は零（ゼロ）戦と呼ばれた海軍主力戦闘機のパイロットであったが、南方戦線で病を得、内地療養を命ぜられ、病院船氷川丸で帰国した。快復後、霞ケ浦航空隊近くで敗戦を迎えている。

戦後は医師を志望、関市にて外科医院を開業。日常の柱として、予科練関係の諸行事があったが、城陵への思いも殊に深いものがあった。

今回の件につき、学校や同窓会の皆さんから賜った限りない御厚情、感謝の至りです。

終りに、生徒の皆さんの城陵生活が豊かならんことを熱望しつつ。

（恵華第36号より転載）

城陵論壇

社会を支え、貢献する人に

恵那高等学校長

纐纈康雄

近年、現在の社会は、少子高齢化、情報化、国際化が進展し、全国の8割の自治体が人口減少に陥っています。人工知能の開発が進み、10年から20年後には、国内の労働人口の約50％の仕事が自動化されるという説もあります。このように我々を取り巻く環境は、大きく変化しており、先が見えにくい時代となっています。このような激しい変化の中で、高校生には、「社会で自立して活動していくために必要な『真の学ぶ力』」が求められています。それらは、まず、「知識・技能の習得」、次に「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」、三つ目に「主体性をもち、多様な人々と協働し学習する態度」です。

このような力を身に付けるには、机上の勉強だけでは十分ではなく、やはり、恵那高校が伝統として大切にしてきた「一人一人の文武両道の実現」が必要だと思います。教科の勉強は、もちろんのこと、本校では、探究型学習に力を入れております。普通科の「生き方我が道（総合的な学習の時間）」と理数科の「課題研究」（県内唯一のスーパーサイエンス・ハイスクール事業）を柱に行っています。部活動も盛んで、全国大会、東海大会に出場する部もあり、自由参加である部活動で95％もの生徒が活動しております。最近では、校外にも目を向け、地域に出てボランティア活動に参加する生徒も増加しております。

生徒の皆さんには、将来、夢を叶え、幸せな人生を送って欲しいと願っています。幸せを感じるには、自らが「貢献」していることを感じられることが大切な要素だと考えています。自分が社会のどの分野で貢献する人になりたいかを深く考え、20年後、30年後を見据えて、自分の進むべき道を見つけ、高校生活を充実させ進路実現をして欲しいと願っています。そして、自分の思いを実現しながら、地域や国や、世界で活躍する人になって欲しいと期待しています。

創立記念講演

恵那から見えたグローバルな世界
～ルーツはいつもここに～

磯部　錦司 氏

平成29年度の創立記念講演会では、本校の高校三〇回生の磯部錦司さんを講師としてお迎えしました。

磯部さんは現在、椙山女学園大学教育学部こども発達学科教授であり、芸術家としても、世界的に活躍されています。講演会では、「恵那から見えたグローバルな世界～ルーツはいつもここに～」をテーマにご自分の体験を交えながら、高校生の今、何をすべきか、何を考えるかを話していただきました。

磯部さんは、本校卒業後、新潟大学教育学部美術科に進学、その後進学した上越教育大学学校教育研究科芸術系を卒業され、岐阜県中学校の美術教員として教鞭を執っていらっしゃいました。教員の傍ら、作品制作も続けられ、一九九二年「日本海美術展」でグランプリを受賞されました。その後、芸術活動に専念され、海外でも展覧会を開くなど活動の場を広げていらっしゃいます。

講演会は「すべてのものが今につながっている」という話を軸に進められました。

まず、フランス、ニースでのご自分の作品展の映像を交えながらのお話がありました。その中で、フランスは名前ではなく、作品で勝負させてくれるからすごい。異質を受け入れる基盤がフランスにはある。だから、自分は海外において、日本人であることに助けられた。海外では、自分自身で勝負するしかない。よく、「努力すれば必ず夢は叶う」といわれるが、そうは思わない。努力は大切だけれど、努力すれば叶うという考え方は少し違う。何が重要なのか。それは、今の自分を信じることができるのかどうかではないか。私自身はこの恵那の地から始まっている。人生に必要な全ての「知」は恵那で学んだ、とおっしゃっていました。

ニューヨークのテロを見て、絵が描けない状態になったこともあったそうです。絵を描くことに果たしてどんな意味があるのかと考え、四年間描くことができなかったそうですが老人ホームで、死ぬ間際まで絵を描くお年寄りや幼稚園の子供たちの描く絵と出会い、なぜ生きているのかを教えられたそうです。生きていくということは自分のためだけではなく、他人との関わり、社会との関わりだと。

そして話題は演題の「グローバル」に関するお話へと移ります。

グローバルは国境をなくすことだが、例えば、友達と仲良く生きようというのも、友達を受容しないと無理だ。「一緒に生きよう」という言葉だけでは無理だ。感じ方を変えないといけない。一人が生きていく足下にはその人の歴史が生まれる。日本には日本の歴史がある、世界には歴史があり自分にも歴史がある。それをいかに感じ取るか。そして、今をどう感じるか、新たな感じ方を生み出していくことが大切だと話されました。

講演の最後には、「人生万事　人間万事　塞翁が馬」という言葉を紹介され、人生どう転ぶか分からない。その中で大切なことは、「今、自分に、納得できることをしているのか」をその時点において確かめること、そして、今をどう生きているか。これまでの一日一日すべてが今の自分、今の作品につながっている。「今、ここ」を大切に生きていきたいと結んでいました。生徒にとっても、生き方を考えさせられる言葉だと思います。

岩畔道徳氏講演会

平成29年度スポーツ庁委託事業　オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業の一環として、明治安田生命ボート部GM兼監督の岩畔道徳氏（高37回）の講演会が平成29年11月16日に恵那高校でありました。

この講演会は、恵那高校卒業生のオリンピアンを招聘し、アスリートの生き方やスポーツに関する様々なキャリアに触れることで、生徒たちが生き方・進路を考える機会とするとともに、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会への関心を高める目的で行われました。

ボート部員に指導する岩畔氏

講演では「恵那から世界へ～世界につながる努力～」と題して、高校時代の思い出やオリンピック出場の経緯などを恵那高生に話されました。

講演終了後は恵那高校ボート部員に対して直接指導されました。

岩畔氏は在学時、ボートシングルスカルでインターハイ優勝。早稲田大学教育学部進学後、数々の全日本クラスの大会で活躍。卒業後、明治安田生命ボート部に所属し、日本代表としてバルセロナ五輪（エイト）・アトランタ五輪（軽量級フォア）に2大会連続出場した。指導者としても早稲田大学や明治安田生命の監督を歴任し、今もなお後進の育成に情熱を注ぎ、日本ボート界の発展に寄与している。また、現在恵那市観光大使も務めている。

活躍する同窓生

平成29年 第6回自然科学研究機構若手研究者賞受賞

勝川　行雄（高47回生）

国立天文台准教授。恵那市岩村町出身。東京大学理学部天文学科、東京大学大学院理学系研究科天文学専攻卒。理学博士

研究テーマは、「『ひので』衛星による太陽磁気活動現象の観測的研究と次世代太陽観測技術の開発」。太陽観測衛星「ひので」の可視光・磁場望遠鏡による彩層や光球磁場のデータを用いて、太陽の磁気活動に迫る様々な成果を挙げています。代表的な成果の一つに、「ひので」を使って太陽黒点の半暗部で頻発する微細な彩層ジェットの発見があります。平成29年6月11日には日本科学未来館「未来館ホール」にて、授賞式と記念講演会が行われ、「ダイナミックに変化する宇宙の姿―太陽を通して活動的な宇宙を読み解く」というタイトルで講演されました。恵那高校からも生徒17人が聴講に出かけました。

勝川氏からのコメント

講演会には恵那高校の後輩の方にも数多く参加して頂き、大変心強かったです。今回の受賞は、人工衛星による新しい観測にチャレンジしたことを評価していただいたものです。これからもチャレンジ精神を忘れることなく研究に取り組んでいきます。

第5回サイエンス・インカレ「文部科学大臣表彰」

吉村　知紗（高66回生）

横浜国立大学理工学部化学生命系学科

吉村さんは恵那市岩村町の出身。4月からは横浜国立大学理工学部（大学院）への進学が決まっている。

文部科学省主催の第5回サイエンス・インカレが神戸国際会議場において、二日間（平成28年3月5日（土曜日）、3月6日（日曜日））の日程で開催されました。「サイエンス・インカレ」は、自然科学分野を学ぶ全国の大学学部生などが自主研究を発表し、切磋琢磨し合う場を提供することで、学生の能力や研究意欲を高め、創造性豊かな科学技術人材を育成することを目的に2011年から開催されています。今回、発表を行った176組（口頭発表46組、ポスター発表130組）の中から吉村知紗さんが文部科学大臣表彰を受賞しました。テーマは「毛はよみがえるのか～夢の毛髪再生技術の開発～」。

大学での研究テーマは「毛髪再生能を有する毛包組織のバイオファブリケーション」。毛包は恒常性維持のための組織幹細胞を有し、毛周期として再生を繰り返す器官であり、スフェロイド容器でマウス胎児皮膚の上皮および間葉細胞を培養することで、毛包を生体外で大量に構築する技術を開発した。現在はヒトへの応用へ向けマウス髭細胞やヒト細胞を用いて研究を行っている。

吉村さんからのコメント

恵那高校ではSSHを経験し、その経験もあって大学1年次から研究室に所属し早期から研究を行える大学独自のプログラムに参加しました。

その結果大学2年から3年に上がる春に行われたサイエンス・インカレに於いて文部科学大臣賞という素晴らしい賞を頂くことができました。

また、ほかにも様々な受賞や特許、国際学会での発表といった貴重な体験を学部生のうちにすることができました。

今春からは大学院に進学し、開発した技術の実用化に向けてさらに研究を進めていけるよう頑張ります。

瑞宝中綬章（教育研究功労）受勲

岩久　正明（高8回生）

新潟大学名誉教授

平成29年秋の叙勲において新潟大学名誉教授　岩久正明氏が瑞宝中綬章（教育研究功労）を受勲されました。岩久氏は東京医科歯科大学卒業後、同大学教官を経て新潟大学教授となる。新潟大学附属歯科技工士学校長、日本歯科保存学会会長、日本歯科審美学会会長、日本歯科人間ドック学会会長などを歴任、新潟大学退官後同大学名誉教授に就任。現在は東京都で歯科医院を開業している。2002年に日本歯科保存学会賞、2003年には日本歯科医学会会長賞を受賞している。

岩久氏はう蝕学の学問体系の確立で知られるほか、一般にはう蝕治療における3Mix法の開発者として知られる。

平成30年度
大学入試

国公立大学　92名 合格！

京都大学	2名	合格	早稲田大学	3名	合格
名古屋大学	7名	合格	慶應義塾大学		合格
岐阜大学医学部		合格			
東京工業大学		合格			

合格した主な大学　（2018.3.28現在）

京都大学	文学部・人文	1名	名古屋市立大学	人文社会学部・心理教育	1名
京都大学	農学部・地球環境工	1名	千葉大学	文学部・人文	1名
岐阜大学	医学部・医学科	1名	千葉大学	教育学部・中学校教員養成	1名
東京工業大学	第1類	1名	千葉大学	工学部・総合工学	1名
東京農工大学	農学部・共同獣医	1名	広島大学	情報科学部・情報科学	1名
名古屋大学	文学部・人文	1名	九州工業大学	工学部・工学1類	1名
名古屋大学	工学部・機械航空宇宙工	1名	福岡大学	医学部・医学科	1名
名古屋大学	工学部・化学生命工	1名	慶應義塾大学	理工学部・学門1	1名
名古屋大学	理学部	3名	早稲田大学	基幹理工学部・学系Ⅱ	1名
名古屋大学	情報学部・コンピュータ	1名	早稲田大学	先進理工学部・物理	1名
名古屋工業大学	工学部・創造工学教育	2名	早稲田大学	先進理工学部・応用物理	1名

合格者数　（延べ人数）

国公立四大	92名（過年度生6名）	私立四大	423名
短期大学	5名	医療・看護専門学校	10名
その他専門学校	5名		

同窓会総会

恵那高等学校同窓会総会は、5月20日（土）午後から、恵那峡グランドホテルを会場に開催された。

校歌斉唱、阿部伸一郎会長、纐纈康雄校長による挨拶、支部長紹介の後、28年度事業ならびに決算報告、役員改選、29年度事業案ならびに予算案の承認が行われた。また、関市在住の中18回生木股健二氏より1千万円の寄付があり、その披露とともに同級生の水野恭平先生から木股氏の紹介があった。（木股氏からはその後2度にわたり5千万円の寄付があり、計1億1千万円とピカソの版画1点を寄付いただいた。なお、木股氏は10月にご逝去された。）

総会に続き、同ホテルを会場に17時30分より高38回生が幹事を務める懇親会が開催された。5年後の百周年に向けて多くの同窓生に声をかけ、159名という過去最高の参加者数となった。アトラクションとして恵那太鼓保存会、大井恵那峡とんとん節保存会の舞台もあり、最後は大会の歌（城陵歌）を全員で熱唱し、閉会した。

各支部各回同窓会あれこれ

東京城陵会総会

平成29年6月4日（日）11時30分から、東京霞が関ビル「東海大学校友会館」にて「東京城陵会第20回東京城陵祭」が開催され、74名が参加された。参加者全員で記念撮影の後、夏目久さんの司会で会がスタートし、物故者への黙祷、伊藤和徳会長のあいさつの後、阿部同窓会長、纐纈校長による祝辞が寄せられた。来賓の紹介、乾杯の後は、和やかな歓談が続いた。途中には同窓生による太極拳が披露され、恒例の「郷土名産品くじ引き抽選会」も行われた。その後校歌を全員で斉唱し、盛会の中、閉会となった。

土岐市城陵会総会

平成29年6月11日（日）16時から、土岐市サンモールSC2階「竜庵」において、「第25回土岐市城陵会総会」が開催された。平成28年度の会務報告・会計報告・監査報告の後、次期役員及び理事が選出され、杏名直美氏が会長に再選された。本会からは高木副会長、中津川恵那高会からは勝会長、瑞浪恵窓会からは水野会長、名古屋恵那高会からは鮎澤会長、学校からは纐纈校長が来賓として出席された。来賓祝辞の後、「Myスペース」の皆さんによるコンサートが行われた。懇親会中もMyスペースの皆さんの歌が続く中、終始和やかに会が進み互いに懇親を深めた。最後に全員で城陵歌を合唱し閉会となった。

名古屋恵那高会総会

平成29年11月25日（土）午前11時30分から、名古屋栄「東急REIホテル」において、「第61回名古屋恵那高会総会」が開催された。鮎澤会長ご自身による司会の下、物故者に黙祷、参加者全員により校歌斉唱の後、定期総会が行われた。続いて阿部同窓会長、纐纈校長から来賓挨拶をいただいた。

その後余興として「Myスペース」による歌が流れる中で、懇親会が中津川恵那高会の吉村事務局長の乾杯で始まり、中24回から高40回卒業生の方々まで幅広い48名の参加者の方々が互いに懇親を深めた。最後に全員で城陵歌を合唱し閉会となった。

中津川恵那高会（恵蘇会）総会

平成29年11月18日（土）午後6時から、中津川市「勝宗」において、「第63回中津川恵那高会（恵蘇会）総会」が開催された。参加者全員による校歌斉唱に始まり、引き続き定期総会として、来賓挨拶、年間活動報告及び会計報告が行われた。

懇親会には41名の参加があり、中24回から高59回卒業生の方々まで幅広い参加者の方々が互いに懇親を深めた。最後に全員で城陵歌を合唱し閉会となった。

瑞浪恵窓会総会

瑞浪恵窓会の平成29年度総会は、平成30年3月4日（日）瑞浪市地域交流センター「ときわ」において開催され41名の参加者があった。物故者への黙祷、校歌斉唱の後、水野会長の挨拶、阿部同窓会長の挨拶があり、平成29年度事業・会計報告および平成30年度事業計画・予算案が審議された。その後、纐纈校長による恵那高校の近況報告、恵那市役所総務部総務課広報広聴係　伊東将昭氏による講演「東日本大震災被災地派遣の記録」があり、懇親会、城陵歌斉唱で閉会となった。

昭和37年校舎全焼時の燃え残り学校新聞

遠山義樹氏（高15回）より学校へ、額に入れた昭和37年校舎全焼時に燃え残った学校新聞の寄贈があった。

遠山氏は昭和37年当時3年生で新聞部員だった。東洋大学社会学部卒業後は岐阜県図書館、中津川市図書館、中津川市教育委員会、中津川市健康福祉部に勤務された。

併せて遠山氏の著書『歴史の道「中山道」往復アルチュウの道』も図書館に寄贈された。

同窓会報「城陵」について

平成13年より創立80周年記念事業に向けて発行が始まった本紙は、多くの同窓生の方々の協力金（一口2，000円）に支えられ、発行を続けてまいりました。昨年度は会報発行のための協力金のご寄付が700口を超え、今回、第18号の発行が実現できました。ご寄付をいただきました方々に、改めて深く御礼申し上げます。同窓会報「城陵」は皆様のご寄付によって支えられております。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会報協力金振込先

会報協力金口座（株式会社同窓会事務局代行口座）
ゆうちょ銀行
岐阜県立恵那高等学校同窓会　口座番号　00170-4-300048

母校のトピックス

SSH第4期開始

城陵第17号でもお知らせしたとおり、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）第4期5年間の再指定を受け、4月よりスタートした。

地域や社会の問題を発見し、主体的・協働的に解決するために粘り強く探究を続けることができる人材の育成を目的とし、以下の3点を目標として実施していく。

・「全校体制で実施する課題研究」による問題発見能力と科学的探究力の育成
・「論理的思考力育成プログラム」による論理的思考力と表現力の育成
・「社会・地域における フィールドワーク」による社会性の育成

新規に学校指定科目としてスーパーサイエンスL（SSL）と、スーパーサイエンスR（SSR）を設定し、SSLは理数科1、2年生を対象として、小論文・ディベート・プレゼンテーションの実践を通して論理的思考の構造である三角ロジックを身に付けることで論理的な思考力と表現力を育成する。SSRは全校生徒を対象として、問題を見付け、興味・関心を深める活動を目的として、大学や研究施設、地域や他校種との交流事業を展開し、自然科学に対する興味・関心を深め、知的興味を喚起することで、問題発見力や社会性、国際性を育成する。

普通科総合的学習「生き方我が道」発表会

平成8年度から他の高校に先駆けて取り組んできた「総合的な学習の時間」は、生徒の考える力を培い、ひいては生徒に生き方や在り方に関わる学びの場を提供してきました。

恵那高に在籍する普通科の生徒が3年間取り組んできた「総合的な学習の時間」の集大成が、今回の『生き方わが道』の各ゼミ代表発表会です。2年時から各自の進路にもかかわる関心事について調べ上げ、見つけ出した課題や疑問について、仮説を立てて検証し、考察をするという探求方法を積み重ねてきた成果の発表です。今まで類似のテーマについて研究している仲間とともに発表しあい、意見を出し合って研究を深めてきました。ユニークでアカデミックな内容の発表から、実社会へ向けた提言につながる発表まで、バラエティに富んだテーマについて探求した成果を、わかりやすく発表しました。

平成29年度の発表会は4月20日に行われ、2年生普通科、3年生普通科・理数科全員および 保護者・中学校の先生方が発表を聞きました。

発表テーマは以下の通りでした。

「犬の殺処分はどうしたらなくせるか」
「客を楽しませられる舞台とは～〝おもしろい〟と〝つまらない〟の差とは～」
「嘘をつくとき、人はどのようなことをするのか」
「バレーボールの試合中、流れを自分たちにもってくるには」
「図書館司書の需要を増やすためには～司書の就職難について～」
「正しい日本語とは何か」
「小児がんの緩和治療の実態と今後期待されている新しい治療法は何か」
「わかりやすく、聞きやすい授業、話し方とは何か」
「なぜ高齢者の家庭内事故は減らないのか、安全な住まいにするためにできることは」
「私たちの「日常生活」でできる発電の可能性」
「変化球はなぜ変化するのか」
「日本のイネは世界中で栽培できるか」
「少子化が進む現代でおもちゃを売る方法～特撮ヒーローから考える」

ハワイ海外研修

平成30年3月10日（土）～15日（木）の6日間、生徒6名（普通科1名、理数科5名）がハワイでの海外研修に行きました。

参加者は約半年前に希望者から選考によって選ばれ、事前研修などを経て本番のハワイ研修に臨みました。

研修先及び研修内容は、マウナケアでの天体観測、ボルケーノ国立公園での火山研修、ビショップ博物館研修、州立自然エネルギー研究所研修、ハワイ大学での地質学研修などで、自然科学や科学技術の知識を高めると同時に、現地の講師の先生と英語でやり取りしながらコミュニケーション能力の向上と国際性を育成してきました。その成果は今後中学生体験入学や課題研究発表会等の場で発表されます。

ミニ教育実習

教員を志望する生徒が中学校で授業の助手を務めるミニ教育実習を行いました。

将来の教員を育てるため、実際の授業を通して教職に進む意欲を高めようと、各中学校に依頼して、恵那東中学校に9名、恵那西中学校に7名、恵那北中学校に2名、岩邑中学校に2名、上矢作中学校に1名、中津川第一中学校に4名、中津川第二中学校に13名、苗木中学校に3名、神坂中学校に1名、瑞浪中学校に4名、瑞陵中学校に6名、恵那特別支援学校に1名の計53名が参加しました。

参加した生徒は中学生に問題の解き方の助言や説明をして、理解しやすい教え方や指導のポイントを学んできました。

事務局より会員の皆様へ

1　本年度も皆様の温かいご支援のもと、城陵第18号を発行することができましたことを衷心より御礼申し上げます。

会員の皆様におかれましては、事務局あてに御消息をお知らせ願う用紙が同封されておりますが、お電話またはファクスでも結構ですので、異動がありました場合にはご一報くださいますと幸甚です。よろしくお願い申し上げます。

電話・ファクス
0573-25-0253

2　本年度の同窓会総会・懇親会は5月19日（土）午後4時30分から、恵那峡グランドホテルにて行います。会員の皆様におかれましては、ぜひご出席いただきたくご案内申し上げます。

なお、同窓会総会・懇親会は、毎年5月第3土曜日に恵那峡グランドホテルで開催することとなっております。